

打合せ日時 4月12日（火） 9時～
場所 新城開発センター会議室
出席者 委員会 山口、柴田、滝川、下江、白井 傍聴…小野田
議会事務局 夏目
観光課 古田産業振興部長、杉山課長、請井、早川

◇打合せ目的

平成22年3月策定の「新城市観光基本計画」に基づいて実施された前期新城市観光基本計画アクションプラン（平成25～平成27）の検証・総括の上に策定された後期（平成28～平成31）の計画の説明・質疑応答。後期計画は、今年3月に策定された。

◇議事録（要旨）

＜杉山観光課長から後期アクションプランの説明＞

○計画策定の位置

今回の打合せ目的と同様

○計画策定の背景

三遠南信自動車道鳳来峡IC、新東名高速道路新城ICの開通、道の駅もつくる新城の開業は、本市の観光振興の起爆剤として大きな効果が期待される。その効果を上げるために後期アクションプランを策定し、実行する。

○計画期間

平成28年度から平成31年度

○観光の現状

- ・新城市は、自然・景観、鳳来寺山、長篠設楽原の戦いに由来した歴史文化という観光資源を保有している。それらの観光資源に、DOS事業（新城ラリー、ツール・ド・新城、トレイルランニングなど）、特徴的な大地を活かしたジオパーク構想などが加わってきている。
- ・新東名の開通効果もあり、東京・大阪からの観光客が増えている。
- ・もつくる新城の来場者数は、148万人（3月末現在）となっており、平成27年度の入込客数に計算している。その結果、ここ数年の190万人台を大きく超え、観光基本計画の目標300万人台となった。

○基本方針

- ・目指す姿…「観光交流による地域の活性化」
- ・アクションプランのテーマ…「未来（あす）へはばたく しんしろ観光アクションプラン」
- ・基本方針
 - 基本方針1 地域資源の魅力度の向上…武将観光の見える化など
 - 基本方針2 観光基盤施設の充実…桜淵公園再整備、設楽原を巡るレンタサイクルなど
 - 基本方針3 観光のまちづくりの推進…市民観光ボランティアの育成など
 - 基本方針4 有効な観光情報の発信による誘客…観光ガイドブック等の有効活用など
 - 基本方針5 広域観光戦略を拡充…新東名を活かした広域的な誘客など

<質疑応答>

委員→スマートフォンアプリ、SNSなどの活用については？

職員→今後導入に向けて検討する、他自治体を調査したが、あまり利用されていない現状がある。どの様に進めるかについて、観光基本計画推進協議会でも検討を進めてきた。情報提供の有り方として、観光モデルコースの紹介、イベント情報、旬の情報などを検討する。

委員→レンタサイクルの活用も検討したらどうか。飯田線の活用まで広げることも考えたら。戦国カルタコース巡りの充実も。

委員→観光振興をどの様に進めるか？

職員→観光事業を行政だけでなく、民間に移行していくべきと考えている。

委員→アクションプランに書かれていることはもっともだが、誰がどの様に検討し、実行していくのかが見えない。これまでも同様なことを計画していたができていない。今回の計画と従来との違いは？

職員→前期アクションプランに比べ、あれもこれもではなく、かなり絞った。

委員→絞ったと言っても、具体的な実行性が見えない。前期計画から何が変わったか、具体的に示して欲しい。

職員→観光資源の磨き上げとして、観光ボランティアガイドの育成を急いだ。設楽原を守る会の中に、ガイド部ができた。設楽原には、当時の地形が残されているので、その魅力を伝えてもらえる。昨年は、4回のボランティアガイド養成講座を行い、ガイド参加者数も1480人（平成26年度は600人）になった。少しずつ着実に、観光振興を広げている。

委員→ガイドを行うためには、観光資源が磨かれていないと、観光客の満足は得にくい。観光資源を、幅広い観光客に魅力あるものにしないと、こだわりのある人しか来ない。結果的には、ガイドの出番は増えないと思う。基本的な迎え入れ体制も不十分。観光地を回ってみると、朽ちかけた看板、錆びて安全性に不安を覚える梯子などがある。今のままでは、新東名の効果を得る前に、ブームが過ぎてしまう。やるべきことができないのは、現在の観光課、観光協会の人員では無理と言うことではないか？

職員→近隣自治体に比べてイベントが多い。イベントの合間をぬって仕事をこなしている。現時点では、職員が実働部隊になるしかない。観光関連団体だけではイベントができない。看板等の整備が必要との認識はあるが、予算がないのでできない。

委員→イベント消化のために、本来の観光行政ができないのであれば、イベントを思い切って止めることも考えるべきではないか？

職員→新城市民も期待しているので、簡単に止めることができない。

委員→新城市民は、イベントという形にしなくても、時々楽しんでいると思う。敢えてイベントとして企画しなくても、必要最小限（安全性確保は必要）でシルバー人材センターに委託するか考えれば良い。

委員→新城ICから降りてからの看板が無いことを多くの人から指摘されているが？

職員→本日、設置することになっている。

委員→さくらまつりの前に、桜淵公園を歩いた。看板が汚れていたり、草が伸びたままの状態があったり、笠岩橋のタイルの剥がれがあったりしていた。事前に対応できなかったのか？

職員→地域の老人会などにより、草刈りなどをしていてくれたが、行政としては出が回らなかった。

委員→情報提供だが、商工会館で4月21日にインバウンドの講習会が予定されている。参加募集人数は20名。予約が必要。

委員→レンタサイクルの件だが、親子で乗りたいという声が、子供用の自転車は用意されているか？

職員→用意しているが、まだ利用は無い。利用した方の反応は良い。

委員→奥三河観光協議会、新城市観光協会との関係は？

職員→それぞれに独自の財源が必要であるが、どちらも会員制にすると、どちらにも会費を払わなければならないとなり、徴収が難しいと心配する。

委員→奥三河自治体の観光協会の取組状況は？

職員→設楽町は、ジビエを売り出している。

委員→観光には、料理も重要。豊根村はチョウザメの養殖を行っている。湯谷温泉への提供を打診しているが、前向きな回答を得ている。安定的な供給を目指しているとのこと。

委員→桜淵公園の笠岩橋からの飛び降り禁止の対応は？

職員→警察からも危険性を指摘されていたので、6月議会には、危険行為禁止の条例を提出予定である。

以上。

次回の定例会は、本日の観光課との打合せと、明日の木質バイオマスの打合せを受けての議論を行う。